

院内がん登録全国集計のためのがんサーベイランスシステムの構築

平林 由香* 西本 寛 丸亀 知美 松田 智大
味木 和喜子 祖父江 友孝

1. 目的

平成 18 年 4 月 1 日より指定が始まったがん診療連携拠点病院（以下、連携拠点病院）制度において、標準登録様式に基づく院内がん登録の実施が求められている。がん診療の中核的施設での院内がん登録の情報は国民の求めるがん診療の実態把握のため不可欠であり、施設ごとのがん診療実態を把握・評価するためには、院内がん登録の実施方式の標準化が前提となる。今回、連携拠点病院院内がん登録の実情を把握し、今後の腫瘍データ収集調査における実施上の問題点を検討し、その解決を図り、調査方法を確立することを目的に各連携拠点病院の 2005 年診断症例を対象とした腫瘍データ収集予備調査を実施した。

2. 方法

対象は 2008 年 3 月現在、連携拠点病院に指定されている 285 施設である。2008 年 3 月から 4 月までの期間、「がん診療連携拠点病院腫瘍データ収集予備調査手順書－2005 年（平成 17 年）診断例－」を参照してデータを抽出すること、配布した「品質管理ツール」による品質管理を実行すること、および所定の手続きによる国立がんセンターがん対策情報センターがん情報・統計部院内がん登録室への郵送での提出を上記施設に依頼した。収集項目は標準登録様式 2006 年度版修正版における必須項目、標準項目のいずれかによる。収集

データは開発中のがんサーベイランスシステムの検証を行い、問題点を列挙した。本調査は、国立がんセンター倫理審査委員会の承認後に実施した。

3. 結果

67 施設からデータの提出があった。必須項目での提出は 21 施設、標準項目での提出は 46 施設、必須項目提出数 14,580 件、標準項目提出数 43,064 件であった。データ提出に際しての問題点は、品質管理ツールに関する問い合わせであり、提出データファイルの書式に関連した内容が最も多かった。特に、「ファイル取り込み開始時に停止する」「データ取り込み中に書式エラーが発生し、品質管理の実行に至らない」といった内容が口立ち、これらはデータファイル作成時に生じるヘッダ行に改行文字を含む、半角全角の入カミス、といったことが原因であった。これらの問題は、国立がんセンター院内がん登録室で開発し、無償で配布している院内がん登録システム（Hos-CanR）未使用施設からの問い合わせが多かった。また、csv ファイルを Excel で開いて保存することにより、数値や日付が自動変換される問題点も明らかとなった。全データを統合したファイルを構築し、がんサーベイランスシステムにインポートした結果、品質管理ツールと同様に「施設番号の桁数」「UICC TNM 分類に関連したコード」「進展

*国立がんセンター がん対策情報センターがん情報・統計部

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

度の術後なしに関連したコード」の不一致に関する問題が挙げられた。

4. 今後の課題

提出されたデータファイルの扱い方やデータの書式など、データを提出する施設側の注意点、データを受領する事務局側の注意点、システムの問題点を具体的に整理することが必要である。こうした点を改善し、2007年診断症例を収集する際の調査方法の確立を進めていく。

5. 謝辞

院内がん登録 2005年診断症例の腫瘍データ収集予備調査にご協力くださいました連携拠点病院の皆様に心から感謝申し上げます。本研究は厚労省第3次対がん総合戦略研究「院内がん登録の標準化と普及に関する研究」班（西本班）の協力を得て実施した。